

平塚らいてう生誕130年記念



ドキュメンタリー映画/羽田澄子監督/自由工房2001年作品/カラー/136分

-元始、女性は太陽であった- 平塚らいてうの生涯

1886年生まれのらいてうは、25歳で女性による初めての文芸誌『青鞥』を創刊。以来85歳で他界するまで女性解放運動のパイオニアとして、一時代を駆け抜けていった。「平塚らいてうの記録映画を作る会」のメンバーの一人、瀬戸内寂聴さんは「百点満点映画」と評価、2002年3月から岩波ホールでロードショーされ、ロングランを記録した。



羽田澄子

1926年旧満州大連生まれ。1945年自由の森学園を卒業、50年に設立された岩波映画製作所に入社、編集に携わる。その後1957年「村の婦人学校」で監督デビュー。以来80本以上の作品を手がけている。1977年「薄墨の桜」、1983年には「早池峰の賦」を完成させ、芸術選奨文部大臣賞、エイボン芸術賞も受賞。数少ない女性ドキュメンタリー監督としての地位を確立する。

10/27 (木) 28 (金) 午前11時
午後2時の2回

当日 **1300円** 前売および電話予約 **1000円**

主催 右岸の羊座シネマテーク 助成 (公財) 仙台市市民文化事業団

桜井薬局セントラルホール

022-263-7868

(電話予約) 070-5323-1939 大石

*詳細問い合わせ下さい。070-5323-1939

映画監督羽田澄子特集上映

「薄墨の桜」「早池峰の賦」ほか2017年1月予定

2017年1月27日(金) 羽田澄子監督作品

「痴呆性老人の世界」上映会
会場 NPO法人シニアネット仙台一番町サロン

----- チェルノブイリ原発事故から 30年 -----

本橋成一 監督

ドキュメンタリー映画 2作品 一挙上映

地図から消えた村に暮らす
人びとの物語

10:00~ ナージャの村

НАДЕЖДА



チェルノブイリ原発事故で汚染されたベラルーシ共和国ゴメリ州ドゥヂチ村。原子力とは無関係の生活続ける村であるにも関わらず、放射能汚染のため、国の立ち退き要請で地図から消えてしまった。それでも村に残る6家族がいる。美しく厳しい自然とともに、大地に根ざして明るくたくましく生きる彼らの暮らしは、豊かさとは何かということを私たちに教えてくれる。

音楽：小室等 語り：小沢昭一 1997年 118分

百年間静かに湧き続ける
泉の物語

13:30~ アレクセイと泉

Алексей и Крыница



「ナージャの村」から5年、再び本橋、一之瀬コンビで作られた作品。原発事故で被災したベラルーシ共和国東南部にある小さな村ブジシチェ。学校跡からも、畑からも、森からも、採集されるキノコからも放射能が検出されるが、不思議なことにこの村の泉からは一切検出されない。村人たちは自慢そうに答える「なぜって？それは百年前の水だからさ」と。湧き続ける泉は、私たちに多くを語りかけ続けている。音楽：坂本龍一 2002年 104分

12:00~

「ナージャの村」「アレクセイと泉」を撮影した
一之瀬正史 カメラマンのお話

ベラルーシ撮影秘録



映画カメラマン。1977年「わが街わが青春・石川さゆり水俣熱唱」（監督：土本典昭）でデビュー。「ナージャの村」にて日本映画撮影監督協会JSC賞受賞。芸術性の高いカメラワークには定評がある。作品は「アレクセイと泉」「ナミイと唄えば」「バオバブの記憶」2015年公開「アラヤシキの住人たち」他。



10/23(日)

仙台国際センター1階研修室

仙台市青葉区青葉山 TEL022 - 265-2211

入場料 1作品 600円 2作品観賞前売券 1000円 *2作品観賞前売券 桜井薬局セントラルホールで発売

主催：日本ユーラシア協会宮城県連合会 助成（公財）仙台観光国際協会

共催：右岸の羊座シネマテーク 問合せ 070-5326-1974 大越まで